

# 仁徳天皇陵

## 素直に喜べない世界文化遺産登録

千葉県中学歴史教科書読み比べ会 オフィシャルサイト: <https://kyokasyoyokunare.jimdo.com/>

### 中学歴史教科書 読み比べ

令和元年  
10月2日(水)  
第11号

〈発行者〉  
千葉県  
中学歴史教科書  
読み比べ会

〈連絡先電話〉  
070-6941-1941

#### 【はじめに】

令和元年七月六日、宮内庁が管理する「仁徳天皇陵」などを含む「百舌鳥（もず）・古市（ふるいち）古墳群」が世界文化遺産に登録されることが決まった。

登録されるのは、規模の大小と多様な墳形により古代の社会的な構造が示された世界的にも稀有な物証である、世界最大の前方後円墳「仁徳天皇陵」（長さ四八六メートル）や二番目の規模の「応神天皇陵」（長さ四二五メートル）など、四九基である。それらの築造年代は、およそ四世紀後半〜五世紀後半とされており、今日まで、千六百年にもわたり守られ、現在では市街地にありながらも、高いレベルの法的保護のもとに保存管理されている。

エジプトのピラミッド、ギリシアの神殿をはじめとする世界文化遺産のほとんどは、すでに途絶えた王朝の遺跡で構成されている。しかし、我が国の天皇陵は、現皇室の祖先の陵であり、今なお皇室祭祀（さいし）が行われる『祈りの場』に他ならないのである。陵には「拝所」が設けられており、今なお毎年命日に祭祀が行われているのである。また、古代より幕末にかけて陵周辺の堀の水は、農業用水としても利用され、地元に多くの恵みをもたらして来たという歴史もある。

そんな「仁徳天皇陵」を、教科書各社はどのように記述しているのだろうか。

以下、東京書籍、教育出版、帝国書院、自由社の順に引用し比較してみる。



仁徳天皇陵と古墳の構造図  
(自由社版中学歴史教科書より)

#### 【東京書籍】

「大和政権の発展」本文三六頁  
「三世紀後半になると、奈良盆地を中心とする地域に、王を中心に、近畿地方の有力な豪族で構成する強力な勢力（大和政権）が生まれました。王や豪族の墓として大きな古墳が造られ、大和政権の勢力が広がるにつれて、全国の豪族も、前方後円墳などの古墳を造るようになりました。古墳が盛んに造られた六世紀末ごろまでを、古墳時代と呼びます。  
五世紀には、王は大王（おおきみ）と呼ばれるようになり、有力な豪族たちが、親から子へとそれぞれの役割を引きつぎながら大王に奉仕する仕組みができました。」  
「大仙古墳（仁徳天皇陵）」側注写真三六頁  
「五世紀に造られた、全長が四八六mある前方後円墳で、世界最大級の墓です。（大阪府堺市）」

#### 【教育出版】

「大和政権の成立と豪族」本文二八頁  
「大和を中心とする近畿の豪族たちは、やがて、大王を中心に連合し、大和政権をつくりました。大阪府にある大仙古墳（大仙古墳、伝仁徳天皇陵）は、五世紀の中頃に造られた、大王の墓といわれる巨大な前方後円墳で、大和政権の勢力の強大さをよく表しています。大和政権は、五世紀の後半までに、九州の中部から関東にかけてのほとんどの豪族を従えるようになりしました。」  
「大和政権の成立と豪族」側注写真二八頁  
「大仙古墳（大阪府堺市）」

#### 【帝国書院】

「古墳の出現」本文二六頁  
「三世紀末になると各地に古墳が出現しました。古墳はその見た目から、四角いものを方墳、丸いものは円墳と呼び、その二つを合わせた形の前方後円墳も出現しました。古墳づくりは、多くの材料と労力を必要とする土木工事であり、富と権力をもった支配者（豪族）が各地に現れたことを示しています。以後、六世紀までの古墳がさかんにつくられた約三〇〇年間を古墳時代といいます。」  
「大和王権の支配の拡大」側注写真二七頁  
「大仙（大山）古墳（大阪府堺市）日本で最も大きい前方後円墳で、全長約四八六m、高さ約三三三mです。」

「大和王権の支配の拡大」本文二七頁

《日本では弥生時代の終わりごろから、鋤や鍬などに鉄の刃先を使うことが広まり、生産力が大きく高まりました。また、武器もおもに鉄製のものが使われるようになりました。しかし、当時の日本列島には鉄を作り出す技術はまだなく、鉄は延べ板のような形で朝鮮半島からもたらされました。》

国を豊かにするために重要な鉄をめぐって、各地の豪族は、朝鮮半島とのつながりのあったヤマト王権と結びつきを強めようとし、また、ヤマト王権は、豪族たちに朝鮮半島からの鉄や技術などを与えるかわりに、みつぎものや兵士の動員などを義務づけました。…》

### 【自由社】

「大和朝廷による国内の統一」本文四二頁  
《三世紀後半頃、大和（奈良県）の豪族を中心とする強大な連合政権が誕生した。これを大和朝廷とよぶ。》

中国では、四世紀ごろから国内が分裂し、五世紀に入ると北と南に分かれて、たがいに争うようになった（南北朝時代）。

同じころ、朝鮮半島では、北部で高句麗が強国となり、南部では百済や新羅が台頭して、三国は互いに勢力を争った。

大和朝廷は、やがて国内を統一したが、その経過については、次に述べる古墳の普及のようすから推測することができる。》

「前方後円墳と大和朝廷」本文四二～四三頁

《三世紀ごろから、日本では、まるで小山のように盛り上がった大きな墓が作られるようになった。これが古墳とよばれるもので、古墳をつくることが流行した六世紀末までの約三〇〇年間を、古墳時代とよぶ。…前方後円墳は、大和朝廷の古墳の形式であり、南は鹿児島県、

北は岩手県にわたる国内各地に約五二〇〇基も存在した。これらは大和朝廷の勢力の広がりや反映したものと考えられる。》

豪族たちの連合の上に立つのは、大王（のちの天皇）で、その古墳はひととき巨大だった。仁徳天皇陵（大仙古墳）は、世界でも最大規模の王の墓である。》

「前方後円墳と大和朝廷」側注四三頁

《天皇の称号は、七世紀になって使われ始めたが、皇統譜（歴代天皇の系譜）で初代とされる神武天皇までさかのぼって天皇の称号でよぶのが慣例になっている。それ以前の称号は「オオキミ」で、漢字で「大王」と書いた。》

ここで最も気になるのは、教科書各社の呼称の違いである。呼称の統一性・一貫性が失われれば、歴史認識の混乱の原因ともなる。

以下、比較のため教科書各社の呼称をまとめてみる。

東京書籍…大仙古墳（仁徳陵古墳）。大和政権。  
教育出版…大仙古墳（大山古墳、伝仁徳天皇陵）。大和政権。  
帝国書院…大仙（大山）古墳。ヤマト王権。  
自由社…仁徳天皇陵（大仙古墳）。大和朝廷。

教科書各社でこれだけ呼称が違うことに驚かされる。

当時の豪族について、東京書籍は「有力な豪族で構成する強力な勢力（大和政権）が生まれた」とし、教育出版では「大和を中心とする近畿の豪族たちは、やがて、大王を中心に連合し、大和政権をつくりました」とし、帝国書院は「各地の豪族は、朝鮮半島とのつながりのあったヤマト王権と結びつき…」としている。自由社は「大和（奈良

県）の豪族を中心とする強大な連合政権が誕生した。これを大和朝廷とよぶ」とし明確に「朝廷」となっている。また、自由社を除く各社

は、天皇については記述していないが、自由社は「『天皇』の称号は、七世紀になって使われ始めたが、皇統譜（歴代天皇の系譜）で初代と

される神武天皇までさかのぼって天皇の称号でよぶのが慣例になっている。それ以前の称号は「オオキミ」で、漢字で「大王」と書いた、と

明確に記している。自由社の記述は系統的で流れが書かれ、言葉が説明されており、分かりやすい。自由社を除く大手三社の記述は、朝廷

天皇の呼称を避けようとし大山古墳のような記述となっているのだからか。

思えば、戦後教育は一貫して戦前を悪として教え、明治以前から

あった伝統的な文化や価値観まで否定してしまつた。天皇・皇室はその最たるものである。教科書各社の呼称の相違の原因も、突き詰めればそこにあるのではないだろうか。

以上

「中学歴史教科書読み比べについて」

大手三社の中学歴史教科書の全国採択状況は、左記のとおりです。

東京書籍（六〇万七千八百五十六冊、占有率〇・五一〇％）、帝国書院（二万三〇七七冊、占有率〇・一七九％）、教育出版（一六万八千七百八冊、占有率〇・一四一％）

（※平成二八年度版 文科省公表値より）

私共は、この大手三社に加え、自由社の併せて四社の歴史教科書を

約二年間に亘って読み比べました。その結果、正しい歴史の記述がなされ、子供が日本の国に誇りの持てる歴史教科書は、自由社の教科書であるとの結論に至りました。私共はこの結果を踏まえ、全国の中学生の子供を持つ父兄、及び教育関係者への周知を図るため、「中学歴史教科書読み比べ」を不定期に発行し、全国の八割以上の中学校で採

択されている大手三社の歴史教科書の問題点を明らかにしてゆく所存です。（会員一同）

※バックナンバーご希望の方は、オフィシャルサイトへどうぞ。